学校番号	302

平成 31 年度　音楽科

教科	音楽	科目	ソルフェージュＡ（視唱）	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の音楽１（教育芸術社）						
副教材等	コールユーブンゲン（大阪開成館　出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- この授業では、教科書、プリントを綴じるためのファイルと筆記用具コールユーブンゲンを持参してください。
- コールユーブンゲンによる視唱練習と新曲視唱の実践問題を行います。
- ソルフェージュの力は、授業時間のみの学習で高めることはできません。毎回の授業から次の授業までの日々の自宅での反復練習が必要です。視唱の予習・復習を丁寧にすることでソルＢ（聴音）の力もつくのでぜひ実践してください。

2　学習の到達目標

音楽を形作っている要素を正しく捉え、音楽性豊かな表現をするための基礎的な能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習を行い、楽譜を見て、旋律、フレーズのまとまりなど様々な情報を読み取り、歌ったり楽器で演奏したりする活動に積極的に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの動きを感受しながら、旋律の方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚など音楽性を持って音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための基礎的な技術として、楽譜に書かれたリズムや音高を正しく表現できる基礎的技能と音楽理論の知識をもとに創造的に演奏する。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値判断し、音楽に対する理解を深め、他者の演奏について的確に言葉によって言い表すことができる。
評価方法	◆授業態度(観察) ◆自宅学習の成果チェックのための小テスト	◆演奏聴取(年２回の実技試験・各授業内の個別指導)	◆演奏聴取（年２回の実技試験・各授業内の個別指導)	

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			関心・意欲・態度	創意・工夫	技能	鑑賞の能力		
4～7		①コールユーブンゲン No. 33～45 〔更に小さい切分音・アウフタクト・複合拍子・六度音程・三連音・六度音程の転回・十六分音符等・付点音符〕 ②新曲視唱 〔ハ長調・イ短調・ト長調・ホ短調の課題〕 ③第1回試験 ④試験の結果を振り返り ➢自己分析 ⑤自宅での反復練習による内容定着を図る(夏休みの課題)	○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○	a:授業中はもちろん、自宅での復習・予習を行いトレーニングする姿勢で授業に臨んでいる。 b:実践問題では、トレーニングした内容を実践できている。美しいフレージングを意識して音楽的に演奏することができる。 c:音高・リズム・音階のそれぞれの要素別にトレーニングを行ったことが正しい演奏に生かすことができている。 d:他者の演奏に対し、音楽の要素に分けて正しく聴き分け、言葉で指摘できる。	演奏聴取(①と②の小テスト)、2回の小テストの成果及び伸び率 ワークシート 観察
8～12		⑥コールユーブンゲン No. 46～53 〔ハ長調以外の長調(♯系)主要三和音・音階からの練習〕 ⑦新曲視唱 〔ヘ長調・ニ短調の課題〕 ⑧自宅での反復練習による内容定着を図る(冬休みの課題)	○	 ○	○ ○ ○	 ○	a:向上意欲を持って、日々のトレーニングに励むことができている。 b:曲想に応じたフレーズを演奏することができる。 c:学習した技能が定着している。和声の中で、演奏する音の役割を答えることができる（根音・第3音・第5音） d:自己分析シートでは、音楽の諸要素に分け、自らの課題について音楽理論の知識も活用しながら分析的に言葉で表現し、課題認識をすることができる。	演奏聴取(夏休み明けの小テスト) 観察

1 〜 2		⑨コールユーブンゲン No. 54〜59 〔ハ長調以外の長調(♭系)主要三和音・音階からの練習〕 ⑩新曲視唱 〔ニ長調・ロ短調・変ロ長調・ト短調の課題〕 ⑪第2回試験 ⑫試験の結果を振り返り ➢自己分析	○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ 		a:毎回の実践問題でできなかった部分をワークシートに記入し、課題を自己分析できる。 c:誤った演奏を認識し、修正して演奏することができる。 d:他者の演奏で楽譜と異なる音楽要素について正しく指摘できる。	演奏聴取 観察